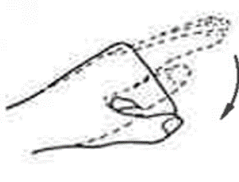
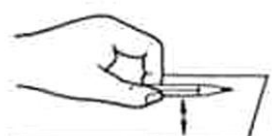


テスト No.	種類	出発肢位・テスト動作	判定	
1	指の 集団運動	出発肢位:前腕中間位 手関節は中間位(背屈位1/4までを含む)～掌屈位の範囲 (注1)中間位がとりにくい場合は、テスト者が軽く支えても良い。 手指伸展位(可能な限り) 	0	出発肢位がとれない、または不能(出発肢位はとれる)
			1	ROMの1/4以下
			2	ROMの1/4～3/4
			3	ROMの3/4以上
			出発点と終点との差で判定する。 ■非麻痺側ROMを基準(4/4)とする。 ■MP,IPの角度を足し合わせて判定する。すなわち、指末節の最終位置により判定することになる。 ■全指が揃わない場合は平均して判定する。	
2	指の 集団運動	出発肢位:前腕中間位 手関節は中間位(背屈位1/4以下までを含む)～掌屈位の範囲 (注1)前腕中間位がとりにくい場合は、テスト者が軽く支えても良い。 手指伸展位(可能な限り) 	0	出発肢位がとれない、または不能(出発肢位はとれる)
			1	ROMの1/4以下
			2	ROMの1/4～3/4
			3	ROMの3/4以上
			出発点と終点との差で判定する。 ■非麻痺側ROMを基準(4/4)とする。 ■全指が揃わない場合は平均して判定する。	
3	手関節の 分離運動	出発肢位:手指屈曲位、前腕中間位 (注1)手指屈曲は3/4以上であればよく、肘の机の上につき、手首は机の面から少し浮かして行う。 	不十分	ROMの3/4未満
			十分	ROMの3/4以上
			■テスト施行中の手関節機尺側はROMの1/4以内であればよい。	
4	指の 分離運動	出発肢位:前腕中間位 全指屈曲位(ROMの3/4以上) 手関節は中間位(背屈位1/4以下までを含む)～掌屈位の範囲 (注1)母指・Ⅲ～Ⅴ指の屈曲は、3/4以上に自力で保っていることが条件。途中で3/4以下になる場合はならない範囲で判定する。 (注2)母指は屈曲していれば、その位置は問わない。 	不十分	ROMの3/4未満
			十分	ROMの3/4以上
5	指の 分離運動	出発肢位:前腕中間位 手関節背屈(ROMの1/4以上) MP伸展(ROMの3/4以上) (注1)母指の位置は自由とし、判定には含めない。 	不十分	ROMの3/4未満
			十分	ROMの3/4以上
			■背屈は全ROMの1/4以上をテスト動作中、自力で保っていることが条件。途中で1/4以下になるときは、ならない範囲で判定する。 ■全指が揃わない場合は平均して判定する。	
6	指の 分離運動	出発肢位:前腕中間位 全指屈曲位(ROMの3/4以上) 手関節背屈(ROMの1/4以上) (注1)母指は屈曲していれば、その位置は問わない。 	不十分	ROMの3/4未満
			十分	ROMの3/4以上
			■背屈は全ROMの1/4以上をテスト動作中、自力で保っていることが条件。途中で1/4以下になるときは、ならない範囲で判定する。 ■母指、Ⅲ～Ⅴ指の屈曲は、3/4以上に自力で保っていることが条件。途中で3/4以下になる場合はなら内示範囲で判定する。	

テスト No.	種類		出発肢位・テスト動作	判定	
7	指 の 分 離 運 動	四指屈曲位で の小指伸展(背 屈位)	出発肢位: 前腕中間位 全指屈曲位 (ROMの3/4以上) 手関節背屈 (ROM1/4以上) (注1) 母指は屈曲していれば、その位置は問わない。 テスト動作 	不十分	ROMの3/4未満
				十分	ROMの3/4以上
				■背屈は全ROMの1/4以上をテスト動作中、自力で保っていることが条件。途中で1/4以下になるときは、ならない範囲で判定する。 ■I～V指の屈曲は、3/4以上に自力で保っていることが条件。途中で3/4以下になる場合はならない範囲で判定する。	
8	スピードテスト		鉛筆を机の上からI、II指の指腹つまみで5回(2～3cm程度)つまみあげて離す。 5回で判定しにくい場合は、10回行わせて計測する(ストップウォッチで秒単位に小数点1桁まで測定)。 	所要 時間	計測は10回分として計算し、小数点1桁まで記載する。 非麻痺側: 秒 麻痺側: 秒
				不十分	麻痺側/非麻痺側の比が1.0を越える。または、麻痺側の所要時間が8秒を越える。
				十分	麻痺側/非麻痺側の比が1.0以内。または、麻痺側の所要時間が8秒以内。
9	連合反応		非麻痺側に握力計を持たせ、最大限に握らせたときに、麻痺指の屈曲が起こるかどうかをみる。 麻痺側の位置は自由(膝の上、体側など)	不十分	なし
				十分	あり